

# 特集

## マウナケア天文台群・山麓施設合同公開日

### ガリレオ・ブロックパーティー

臼田-佐藤 功美子（国立天文台ハワイ観測所）

#### 1. 一年以上前から計画した、ハワイ島での世界天文年大イベント

マウナケア天文台群普及委員会（MKOOC = Mauna Kea Observatories Outreach Committee）[1]主催の世界天文年(IYA)企画の中で、著者がリーダーを務めた天文学トレーニングカード[2]と宇宙ポスターコンテスト[3]について、天文教育 2009年7月号でご紹介いたしました。三つ目の企画、MKOOCのIYAイベントの中で最大の規模を誇る、ガリレオ・ブロックパーティーを10月24日に開催しましたので、ご報告いたします。

計画は2008年6月、MKOOCのメンバーと弁当を食べながらIYA企画についてあれこれアイデアを出しあった時から始まります。ある人が「ハワイ大学構内、マウナケア天文台の山麓施設群に沢山の人をよんで、大きなイベントをしたい」と言い出し、みんな賛同しました。その後企画数を絞り、各観測所でイベントを分担してリードするというように決まった時、「Kumikoがブロックパーティーのリーダーをやってくれない？」と頼まれました。ちゃんと仕切ることができるか不安だったため一寸躊躇しましたが、適役だと思っただし、これだけ大きなイベントをリードするのはハワイ観測所(Subaru Telescope)ぐらいしかないという自負もあり、引き受けることにしました。後日、IYA特別予算も獲得でき、山麓施設群合同公開日であるブロックパーティーにゴーサインがでました。

ブロックパーティー(Block Party)とは文字通り、道を通行止めにして(=ブロックして)行うパーティーのことで、通常はお酒を飲みながら音楽をかけてダンスをするような

ものを指します。このイベントはそうではなく、アルコール抜き天文イベントだということ強調するため、「ガリレオ・ブロックパーティー」と命名しました。

さて、最初の仕事は開催日の決定です。毎年5月にヒロ市内のショッピングモールでアストロ・デー(AstroDay)[4]を行うため、ブロックパーティーは秋に行おうということだけ漠然と決まっていた。地元紙のイベントページや観光ガイド等を調べ、ヒロ市内での大きなイベントと重ならない日を選定しました。さらに、晴れていたら観望会を行うかもしれないことから、夕方に月が見える10月24日(土)に決定しました。半年以上たった後、世界天文年世界企画「ガリレオの夕べ(Galilean Nights)」のアナウンスが流れ、丁度日程があうことから、ガリレオの夕べにも登録しました。

#### 2. 全てが初めてのことばかり

アストロ・デーなどのイベントで大コーナーを仕切ることには慣れていましたが、これだけ大きなイベントの総責任者を務めたことはなく、著者にとって初めての経験ばかりでした。ハワイ観測所、イミロア天文センター(Imiloa Astronomy Center of Hawai'i: 以下「イミロア」と記す)、Gemini天文台、Joint Astronomy Centre(以下JACと記す)などの主要メンバーでブロックパーティー企画委員会を結成した時、市内で大きな野外イベントを毎年行っているラジオ会社の社長、Chris Leonardさんもメンバーに加わっていただきました。

次の仕事は、やるべきことのリストアップ

と業者の選定、予算の見積もりです。月例 MKOOC 会議とは独立に、定期的に企画委員会で集まり内容を詰めていきましたが、第一回の会議では正直青ざめました。経験のないことばかりで感覚がつかめない上、英語がわからないのです。例えば「ADA (Americans with Disabilities Act)仕様のトイレ」(=車椅子用のトイレ)と言われても、最初はチンプンカンプンでした。それでも、経験と人脈が豊富な Chris さんに業者を紹介いただき、簡易トイレ、テント、交通整理の警官やガードマンの雇用など、予約を一つ一つこなしていきました。ハワイ島郡役所に提出するテント設置許可申請書の作成時には、テント会社の方にいろいろ教えていただきました。

その中で不安要素は保険でした。ハワイ観測所が契約している保険会社を訪れ、イベントの概要を説明し、一日イベント用保険の見積もりをお願いしました。しかし、受け取った保険契約内容を見ても、どのような場合に保険が適応されるのか、支払われる金額は妥当なのか、さっぱりわかりませんでした。保険会社と会議をもち、各項目の保険適応範囲を確認したり、Chris さんに他社の保険の支払い金額と比較してもらったりした上で契約しました。

交通整理と警備は、イミロアのイベントでいつも仕切っておられる Carlos Moller さんに全面的にお願いしました。Carlos さんはイミロアに限らずハワイ大学構内の施設について精通しており(そういう仕事の人だから当然なのですが)、何かわからないことがある度にいつも助けていただきました。

### 3. ポスター、バナー、広告

できるだけ沢山のの人にこの IYA イベントに参加してもらいたいという気持ちから、精力的に宣伝を行いました。ハワイ観測所の広報

担当者 Suzanne Frayser さんに、いつ頃何処にどのような情報を流すかという戦略案を作成いただきました。企画委員会で確認の上、それぞれが得意分野を担当しました。例えば、

- ポスター作成 : Kumiko (Subaru)
- ウェブリリース、地元紙記者への連絡 : Suzanne (Subaru)
- 公式サイトでの作成 : Kumiko (Subaru)
- 地元紙への広告 : Janice (Gemini)
- ラジオ広告 : Janice (Gemini)
- 観光雑誌への対応 : Gloria (Imiloa)
- 町中(店・掲示板)でのピラ貼り : Vinnie (Imiloa)
- 要人への招待状 : Amy (Imiloa)
- 学校への連絡 : Kumiko (Subaru)
- 先生講習会での宣伝 : Inge (JAC)
- バナー作成 : Kumiko (Subaru)

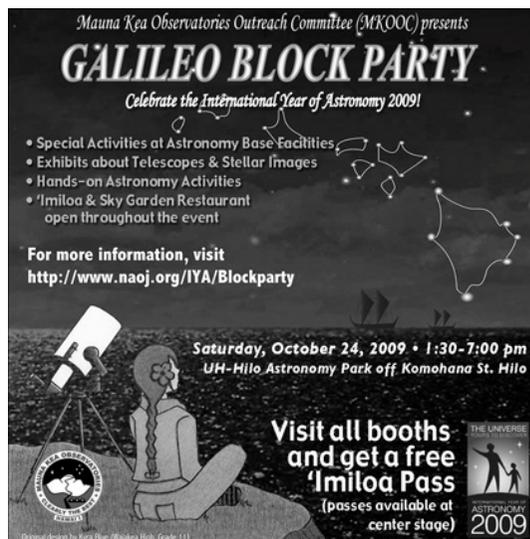


図1 地元紙に掲載された広告

ポスターや広告(図1)は、宇宙ポスターコンテスト[3]高校生の部で一位になった Kyra Blue さんのデザインに手を加えたものを、本人の了承を得て使わせていただきました

た。新聞広告は直前の一週間掲載、ラジオ広告は Chris さんの放送局 (AM・FM あわせて三局) で直前の二週間放送していただく契約をしました。

Suzanne さんと Gemini 天文台の Janice Harvey さんの尽力のおかげで、地元紙 Hawaii Tribune Herald に 9 月 6 日、10 月 18 日、当日の 10 月 24 日の三回記事が掲載されました。10 月 18 日の記事には、記者から電話でインタビューを受けた、著者のコメントも含まれています。前々日の 10 月 22 日には、Chris さんの AM 放送局 KPUA にて、MKOOC 委員長、JAC の Inge Heyer さんと一緒にラジオインタビューを受けました。

#### 4. トレーディングカードとイミロア・パスの配布

著者の別企画、ポスターコンテストの優勝デザインをガリレオ・ブロックパーティーのポスターとして採用したことは既にご紹介しました。(こういう目的でコンテストを企画したわけです。) もう一つの企画、トレーディングカードも印刷し、各観測所のコーナーから配布してもらいました。従来の 56 枚に加えて、ブロックパーティー限定カードを作成しました。2009 年 6 月にすばる、Keck、Gemini 三台の大型望遠鏡から同時にレーザービームを照射した時の記念すべき写真を使ったものです。このカードは通常のセットには含まれない、限定レアカードになる予定だったのですが、スートや番号が入っていなかったのが敗因か、大量に余ってしまい、全くレアではなくなっていました。(2010 年 5 月のアストロ・デーで残りを配るハメになりました (苦笑)。)

ブロックパーティーの予算が大幅な赤字になることがわかり、MKOOC 会議で報告すると「それじゃあ、残りの予算を全部トレーディングカードにつきこんでしまおう！」と全

会一致で決まり (それで大喜びしてしまいました)、急遽増刷しました。当日各観測所のコーナーから 500 部のカードを配布しましたが、中には全て配布し終えたところもありました。

またイミロアから、全てのコーナーをまわったら無料で入館できるイミロア・パスを提案していただきました。トレーディングカードもイミロア・パスも、参加者に全てのコーナーを見てもらう様、仕向けたものです。

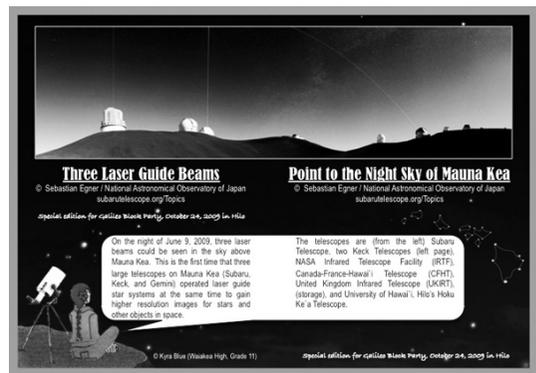


図2 ブロックパーティー限定カード

この様に2枚をあわせると、パノラマ写真が楽しめる

#### 5. 当日の様子

雨の多いヒロで一番心配なのは天気でした。開会式の会場など、大雨だった場合のバックアップ・プランは考えてあったのですが、当日は朝から快晴で、幸運なことに雨の場合を考える必要がなくなりました。

##### 5.1 開会式 (オープニング・セレモニー)

「アローハー!!」という司会者 (著者) のかけ声とともに、午後 1 時 30 分から予定通りハワイ観測所中庭に設置されたテントの下、センターステージにて開会式が始まりました。最初にハワイのしきたりに従い、Kai'u Kimura イミロア副所長率いるグループに Hawaiian Chant (古代から受け継がれてい

る祈りの歌) を歌っていただきました。

次は、要人の手短なスピーチです。ハワイ大学ヒロ校 Rose Tseng 学長とハワイ観測所・林正彦所長に 5 分程度の挨拶をお願いしました。林所長は、地元からの観測所群支援への感謝、マウナケアが現代の天文学に果たす役割を述べて下さいました。



図 3 開会式で挨拶する林所長

続いて Daniel Inouye アメリカ上院議員からのメッセージを、代理人の Delbert Nishimoto 氏に読み上げていただきました。Inouye 上院議員はハワイでの科学・科学教育に深い理解を持っておられる方です。Linda Lingle 州知事からのメッセージを読み上げて下さる予定だった代理人が急遽欠席になったため、司会者から読み上げさせていただきました。

開会式の締めくくりは、ハワイ島郡 (County of Hawai'i) の Mayor (郡長) Billy Kenoi 氏からの挨拶です。「マウナケアは天文学研究における世界の中心地だ」と各観測所に感謝状が贈られました。(ハワイ島には神聖な山に望遠鏡を建設した天文台群のことを良く思っていない、根強い反対派がいる中、Kenoi 氏は 2008 年の選挙時から次世代大型望遠鏡 TMT: Thirty Meter Telescope の計画に賛成の意思表示をされていた方です。)



図 4 ハワイ州知事からのメッセージを読み上げる司会者 (著者)

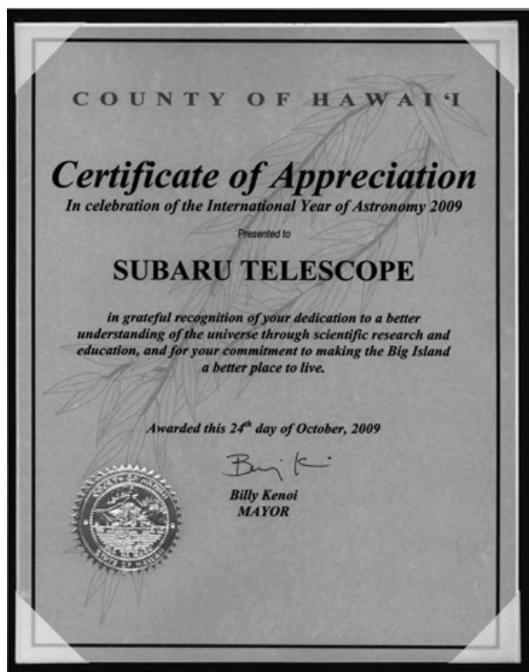


図 5 Mayor から贈られた国立天文台ハワイ観測所への感謝状

## 5.2 「Mayor と話そう」セッション

開会式に引き続き、センターステージにて中学生向けの「Mayor と話そう」セッションを行いました。この企画を思いついたきっかけは、著者の息子が所属しているカブスカウト (ボーイスカウト小学生版) のグループに

Mayor が来られたことです。子供と同じ視線に立ち、小学校低学年でも飽きないように上手に話をされる Mayor を見てとても感動しました。そして子供とのトークを、是非ブロックパーティでも行って欲しいと思い、秘書の方に連絡をとりました。

この件に関しては、著者のアシスタントを務めて下さった Harris Hirata さんと何度も議論の上、(1)ブロックパーティで行うのだから、テーマを地域社会における科学・科学教育の役割にしようということ、(2)職業について考え始めつつある年齢の中学生に参加者を絞るということ、(3)各中学の先生に、参加可能でかつ、科学に興味を持つ熱心な生徒を選んでいただくこと、(4)Mayor はとても愛想が良く、質問への応対も上手なので打合せなしでも失礼なことにはならないだろうが、中学生からの質問を事前に秘書の方に送っておこう、ということを決めました。Harris さんは秘書の方との打合せだけでなく、複数の学校に何度も足を運び、理科の先生と話をすすめて下さった、言わばこのセッションの育ての親です。

セッションには 4 校から 25 名の中学生が参加しました。Mayor の反応の良さに魅せられ、予定外のものも含めて質問がたえませんでした。「子供の頃、理科は好きでしたか?」「学校の科目の中で、何が好きでしたか?」「理科の中では何が好きでしたか?」という質問に対して「一番好きだった科目は歴史で、理科は、実は全部好きというわけではなかったですね。でも、元素周期表を習った時はすごく面白かったです。世の中の物質がどういう性質を持っていて、どう反応するかという理がわかりましたからね。」という回答が返ってきました。質問の中にはゴミ処理問題など、一歩踏み込んだもの、特に天文台に直結するものもありました。「マウナケアは神聖な山なのに、なぜ望遠鏡を建てるのですか?」とい

う質問に対して「マウナケアは神聖なだけでなく、特別で唯一の存在です。私達の財産であるマウナケアを敬い、保護し、大切にしなければいけません。山頂には世界最先端の望遠鏡が並んでいますが、私達は天文台群とともに働き、マウナケアとこの島を守っていかなければいけません。」という、さすが思わせるバランスのとれた回答をされました。



図 6 セッション中に中学生と意気投合して握手する Mayor

10 月当時のハワイ島民の最大の話題は Furlough (無給の自宅待機) でした。経済悪化のため、ハワイ州政府などでは月に三回 Furlough の日を設けています。そしてついに、教育現場でも Furlough が始まって子供達の登校日が減り、前日 (10 月 23 日) が初めての Furlough Friday でした。当然のごとく中学生から Furlough の質問が出ました。

(Furlough はハワイ島郡の責任・管轄ではないので、Mayor に質問するのは筋違いなのですが。) ある生徒が「こんなに不景気で Furlough など問題が山積みの時に Mayor になって楽しいですか?」と質問しました。「子供達から教育の機会を奪う Furlough は深刻な問題で、何とかしなければいけません。幸いなことに、私達の地域社会には (観測所スタッフを指して) ここにいる皆さんのような、地域のことを考え、教育に熱心な人達が沢山

います。君の質問への答えは、もちろん”YES”です。大変な時期だからこそ、これから良く変えていこうと努力することができるし、私を助けてくれる人々と仕事を楽しんでいます。私はこんな時期に Mayor であることを誇りに思っています。みんなから”ありがとう”と言ってもらえるのが、最大のご褒美です。」という、非常に前向きな姿勢、かつ、私達天文台群のスタッフを尊重して下さっている Mayor の回答を聞いて、泣きそうになるぐらい感激し、思わず「私達も、こんな素晴らしい Mayor がいて、とても幸運です。」と口をすべらせてしまいました。

セッションの後、参加した中学生一人一人に、ブロックパーティー企画委員長（著者）と Mayor のサイン入り参加証が配られました。参加証の話はこちらから持ちかけたのですが、秘書の方は快諾して下さっただけでなく、ハワイ島郡のロゴ入りカバーまでつけて下さり、Mayor と秘書の方の細やかな対応にとっても感謝しています。



図7 セッション終了直前に「ガリレオさん」も Mayor に質問

### 5.3 各コーナーでの催し物

観測所の山麓施設内だけでなく、ブロックパーティーの名前通り、施設が立ち並ぶ通り

を歩行者天国にして道沿いにテントをはり、合計 15 のコーナーでいろいろな催し物を行いました。観測所群に加えて、アマチュア天文グループや大学の天文サークル等にも参加していただきました。それぞれのコーナーが工夫を凝らし、彗星を作ったり、鏡の掃除（CO<sub>2</sub>クリーニング）のデモを行ったり、ロケットの工作を行ったり、いろいろなハンズ・オンで参加者を魅了しました。その中で山麓施設でしかできない施設見学ツアーを行ったのがハワイ観測所と Gemini 天文台です。



図8 ハワイ観測所施設見学ツアーにてリモート観測の説明をする Erich Jeschke さん（上）と、光学シミュレーター室を披露する鈴木竜二さん（下）

ハワイ観測所では、20分毎、12人のグループを案内しましたが、人気が高く、どの時間枠もすぐに予約でいっぱいになりました。

アンケートに「もっとツアーの回数を増やしてほしい」と書いた人がいるぐらいでした。また、会議室では星座カメラ i-CAN を使って、昼間にアメリカ東海岸などの星空を観望していただきました。ロビーでは、すばる望遠鏡 10 周年の展示を行いました。ファーストライト当時から広報を担当されている布施哲治さんに特別展示を作っていただきました。

山麓施設外でも、ハワイ観測所スタッフは大活躍しました。インフォメーション・ステーションと応急処置コーナーでの対応や、センターステージでの音響の管理、全テントに設置しなければいけない消火器の手配と管理等はハワイ観測所が担当しました。また、前日までに林左絵子さんが中心となり、通行止めや駐車場使用ポリシーの連絡、駐車許可証の発行等もハワイ観測所が行いました。

#### 5.4 センターステージでの生演奏

人をひきつけるためには、音楽が効果的です。「地域社会に根ざした家族向けイベント」という主旨に従い、プロの演奏家をよぶのではなく、学校の音楽バンドや地域で活躍しているグループに依頼しました。ワイアケア中学校ウクレレバンド、ヒロ高校ブラスバンド、ファイ・オキナワ古武道太鼓グループに、センターステージにて演奏していただきました。



図9 ワイアケア中・ウクレレバンドの演奏

#### 6 ブロックパーティーを終えて

企画委員会の尽力と好天候のおかげで、ブロックパーティーは大好評のうちに幕を閉じました。各観測所の情報を総合すると、のべ約 2,000 人が参加したことになります。翌日地元紙一面に大きな記事が掲載され、反響の大きさが伺えました。当日の写真やビデオ、新聞記事については、公式ページをご覧ください。



図10 翌日地元紙一面に掲載された記事  
メインの写真はヒロ天文クラブ（兼、ハワイ観測所）のOlivier Guyonさん（写真中央）自作の望遠鏡をのぞく子供達

インフォメーション・ステーションで 120 人から回収したアンケートでも肯定的な意見が多数を占め、五段階評価の平均値は 4.6 でした。（「全くつまらなかった」が 1、「大変面白かった」が 5。）自由記入欄には、「私はこのイベントのためにアメリカ本土から来た」「5 月のアストロ・デーでトレーディングカードを全部集められなかったから、残りを集めにきた」「ブロックパーティーのスタッフ T シャツを売ってほしい」なんて書き込みもありました。そして、複数のアンケート用紙に

書かれていたコメントが「来年もやってほしい」です。実際、観測所内外で、沢山の人に「ブロックパーティー良かったねー。来年もやるの?」と聞かれました。今年は IYA の特別イベントということで予算がつかいましたが、予算の点からもマンパワーの点からも、毎年行うには正直無理があります。質問を受けた時には「次は天体望遠鏡 500 周年の時かな?」と冗談を返していますが、次回いつ、誰がリーダーとなって行う、という明確な予定はありません。そのため、次回行うスタッフがゼロから始めなくてもすむ様に、今回培ったノウハウや、次回への改善点などをどこかにまとめておくことが、企画委員長としての責務かなと感じています。

今回ガリレオ・ブロックパーティーを開催し、いろいろな業者の地元の方々につながりがもてたのは、何物にも代え難い財産となりました。企画委員会のメンバーにも恵まれました。著者の努力を汲み取り、いつもほめて励まして下さった企画委員会、MKOOC、Mauna Kea Observatories Support Services(MKSS)の皆さんのお心遣いと協力に深く感謝申し上げます。また、ブロックパーティーを「観測所あげてのイベント」と認定し、支援して下さいったハワイ観測所長と部門長の皆様、どうもありがとうございました。最後になりましたが、何度も綿密な打合せを行い、ブロックパーティーを支えて下さった林左絵子さん、Suzanne Frayser さんはじめ、ハワイ観測所広報室の皆様、著者のアシスタントを務めて下さった James Randall さんと Harris Hirata さんにこの場を借りて厚くお礼申し上げます。

**Galileo Block Party 公式サイト**

<http://www.naoj.org/IYA/Blockparty>

追伸：篠原秀雄さん（蕨高校・国立天文台にて長期研修中）にハワイ出張の際、ガリレオ・ブロックパーティーをお手伝いいただきました。篠原さんのレポートもあわせて読んでいただければ幸いです。すばる望遠鏡ホームページ（英語版）トピックス欄[5]に 2009 年 12 月 4 日付けで二つ記事を掲載しています。そちらもあわせてお読み下さい。

### 文 献・サイト

- [1] <http://mkooc.org>
- [2] 臼田・佐藤 功美子(2009)「全部集めよう！マウナケア・ブランド、天文学トレーディングカード」天文教育 Vol. 21 No. 4, p37
- [3] 臼田・佐藤 功美子(2009)「宇宙ポスターコンテスト in ハワイ島」天文教育 Vol. 21 No. 4, p41
- [4] <http://astroday.net>
- [5] すばる望遠鏡ホームページ・トピックス（英語版）<http://www.naoj.org/Topics/>

臼田・佐藤 功美子